

椎野勇太准教授が日本古生物学会論文賞を受賞しました

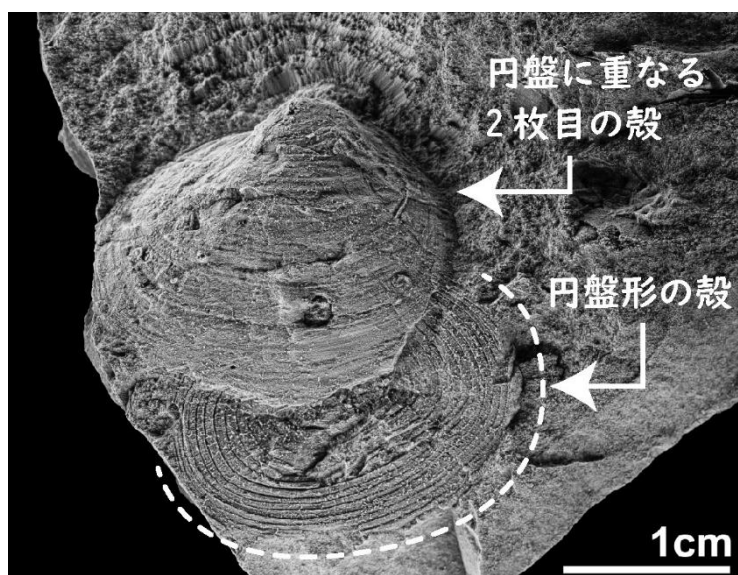
椎野勇太准教授（理学部/自然科学研究科環境科学専攻地球科学コース）の論文が2022年7月1日開催の日本古生物学会において、日本古生物学会論文賞として決定いたしました。

本論文賞は、『Paleontological Research 誌』の24巻1号（2020年）から25巻4号（2021年）に掲載された論文を対象に、最も独創性の高い優秀な研究論文として授与されたものです。当該論文では、宮城県に分布するペルム紀（約2億5千万年前）の地層から採集した円盤形の腕足動物が「新種」であることを提唱し、どのように泥の海底へ適応していたのかを復元しました。化石となる殻の埋まり方と腕足動物の特徴を複合的に検討し、化石生物の古生態を復元した模範的側面が評価されました。

著者：Masunaga, M. and Shiino, Y.

論文タイトル：Death or living assemblage? The middle Permian discinid brachiopods in the Kamiyasse area, Southern Kitakami Mountains, northeastern Japan

掲載誌・巻号頁：Paleontological Research, Vol. 25, no. 3, pp. 258-278



種の基準となる模式標本（学名：Orbiculoidea verum Masunaga & Shiino 2021）